発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭鉱 528 475 番

編集発行人　平島敏治
三鉱勞組印刷工場

三鉱勞組
機関紙

サァ闘いは始まった

炭界不況の口實にのらず

期末手当をかち獲れ

炭勞本部では第十回定期大会の決定に従い、上期々末手當をかちとるため、五月二十日、二十一日の両日拡大執行委員会を開いて具体的な闘争の進め方について審議し、闘争を速かに具体化するような決定をなして各地方本部、資本別、支部に直ちに闘争を組織するよう指令を發した。

ブロックを編成

闘争委員会の発足に当ってブロック（日炭勞職、日鉱勞職、三菱、北炭勞職、住友勞職）◎中央ブロック（三井鉱、日鉄、大正勞職、鷹取、杵島）◎九共闘ブロック（宇部興産）及び中小支部対策としては北海道、常磐、山口、九州各地方ブロックで対角線交渉方式がとられることを編成して各ブロック毎に闘争委員会を設置する。

對角線交渉で

闘争委員会の発足に当ってブロック毎に闘争委員が確認された。この対角線交渉とはブロック交渉委員会で決定された、交渉委員会が個々の会社との交渉に当るわけだがその交渉員の中には当然炭勞中央執行部又は地方本部執行部の如き上部団体交渉を拒否されても止むを得ないも役員、あるいは他支部組合幹部等のかどうか、という問題について が含まれることになる。これらの者はその支部の組合から交渉權の委任を受けていなければならないかどうか、委任を受けていないからとの理由で相手方の会社から交渉を拒否されても止むを得ないも の様な結論が出る。

労働組合が重要な闘争に直面しているとき、組合員の多数は闘争に勝ちたいと願っている。また労働者の中に社会主義社会を実現したいと考えている人は早く自分の目の玉の黒いうちに社会主義革命の時が来ればよいと願っている。

しかし、果してこの闘いに勝てるのだろうか？と疑問をもつ人がかなり多い。

或人は、主体的条件はそろっているが、客観的条件が悪いと考え、他人は、客観的条件はよいのだが主体的条件が欠けている、と言う。別の人は、どちらでもよいと主張するまたどちらもよいと主張するこのような判断を観勢判断というのだが、実際にはこの情勢判断はなかなかむつかしい。この情勢判断を的確に行いうる指導者は偉大なる政治家である。しかし、考えて見れば、現在としてはこの情勢判断ほど易しいものはない。

労働者が資本家と闘争するに際し敵味方の優劣が判りさえすればよいのである。だが実際には敵も味方もその実力をなかなか判断者にはつきりとは示してくれない。力を測定する尺度が圧力計や物差や秤りとしてあるのではなくて、すべて実践者の主観を通されねばならぬからである。判断が狂うのは測定器が狂うからではなくて見る目が狂うものだ。

力の優劣の問題は絶対的な力の大きさの問題ではなくて相対的な大きさの問題であるよく言われる力関係がそれである。五は三に優るが、五より大きい七でも九に劣る。だから五が勝てるか負けるかは相手次第ということになるこ とは明らかである。よくこんな話をきく、一うちの組合はまあざっとこんなさまなんで す、これでは幹部がどんなに言葉をとって見ても勝てっこないことは判りきっています よ 勝てっこないことは始めからせんが方がましですーど。その通りである。しかしこの人の言い分には足らぬことが三つある。

第一、組合の相手が組合の実力に対してどういう力をもっているか、組合の力が一定だとしても相手の力はいろいろに変っていくことがある。そうだとすれば、相手の変り方如何ではそのまゝの組合の力でやっても勝てるチャンスはあったかも知れない、一とれを見ようとしたかどうか。

第二、組合の実情が眼目というのはその人の判断により眼目なのだが、それをいくらかでもよくしようという自分の努力が実るチャンスを見ようとしたかどうか。要するに組合の実情と自己の努力との関係である。自分の努力をもつてしても組合はどうにも動かぬものかどうかである。

第三、相手の力が一定不変なら 自分達の努力如何ではいつかは組合が優るときがくる、という精神をもっている人としない人とがある。それなら手洗いの効果は疑問なのだろうか。しかし医学の立場は手洗いをすゝめている。なぜだろうか。その人の健康状態が二十万のペイキンには抵抗できなくても五万のペイキンには勝てるなら手先に五万のペイキンを塗りつけるような方でも手洗いの効果は百%である。即ち、その人の抵抗力が五万のペイキンにも負ける事情にあるなら、そんな手洗いの程度では効果はゼロである だから医者は保健のために、手洗いと同時に体力を向上させる方法をすゝめている 五万のペイキンはおろか、十万のペイキンにも勝てるような体力をもつと同時に いつもよく手を洗っているなら、この方面からの病気には絶対かゝらないことは明らかである。病原菌と肉体との力関係を医学は教えるのである。病原菌に勝つか負けるかはこの力関係できまるということゝ常に病原菌を少くすることゝ体力をつけることに心懸けるのが保健の原理であると同時に、治療の原理でもあろう。

社会病に対処する態度もこれと同じである。

九大助教授　奥田　八二

寄稿

勝つのか負けるのか

まあざっとこんなさまなんで す、これでは幹部がどんなに言葉をとって見ても勝てっこないことは判りきっています よ 勝てっこないことは始めからせんが方がましですーど。その通りである。しかしこの人の言い分には足らぬことが三つある。

第一、組合の相手が組合の実力に対してどういう力をもっているか、組合の力が一定だとしても相手の力はいろいろに変っていくことがある。そうだとすれば、相手の変り方如何ではそのまゝの組合の力でやっても勝てるチャンスはあったかも知れない、一とれを見ようとしたかどうか。

第二、組合の実情が眼目というのはその人の判断により眼目なのだが、それをいくらかでもよくしようという自分の努力が実るチャンスを見ようとしたかどうか。要するに組合の実情と自己の努力との関係である。自分の努力をもつてしても組合はどうにも動かぬものかどうかである。

第三、相手の力が一定不変なら 自分達の努力如何ではいつかは組合が優るときがくる、という精神をもっている人としない人とがある。それなら手洗いの効果は疑問なのだろうか。しかし医学の立場は手洗いをすゝめている。なぜだろうか。その人の健康状態が二十万のペイキンには抵抗できなくても五万のペイキンには勝てるなら手先に五万のペイキンを塗りつけるような方でも手洗いの効果は百%である。即ち、その人の抵抗力が五万のペイキンにも負ける事情にあるなら、そんな手洗いの程度では効果はゼロである だから医者は保健のために、手洗いと同時に体力を向上させる方法をすゝめている 五万のペイキンはおろか、十万のペイキンにも勝てるような体力をもつと同時に いつもよく手を洗っているなら、この方面からの病気には絶対かゝらないことは明らかである。病原菌と肉体との力関係を医学は教えるのである。病原菌に勝つか負けるかはこの力関係できまるということゝ常に病原菌を少くすることゝ体力をつけることに心懸けるのが保健の原理であると同時に、治療の原理でもあろう。

社会病に対処する態度もこれと同じである。

九大助教授　奥田　八二

判公回五第の件事山上は寫

證人じん問続く

山ノ上、勝立事件公判

△…勝立鑛店事件公判は廿四日午前十時から地裁大牟田支部で開廷、から当時の状況を詳細に聴取、次

交渉權は炭勞にある

今期々末手当闘争はブロック毎の盛りあがりと共闘の確立をもつとも必要とする。そのため要求書は八月、九共闘は額の統一をはかり、地方ブロックは統一要求案に進む ことが第十回大会で代議員の無綱は現在与論審査中のものを五月 ト間に集約してきゝ、五月下旬から六月二十日頃までに大衆討議に 従ってあらためて委任その他特別 の手続き必要とすることなく、大 会決定に従って正式に選ばれた交 渉委員は誰でも各社との交渉を行 う權限を有していることは明白で 若し会社が団交に応じない場合は 労組法第七条第二号違反の不当勞 働行為となる。

要求書は六月二十日目途

今次の期末手当闘争は下部勝勝の断固たる決意が必要である。

断固たる決意が必要

会社は炭界不況を理由に期末手当 要求を拒否することが想定され 下部においても会社は期末手当を 出さないという謀略を浸透させて いる。期末手当をかちとるために

前進

改選と組合の宿題

五月二十九日新規約による総改選を経て執行、監査、決議機関とも夫々厳正なる組合員の批判の上に、新陣容の誕生を見たが新執行部が当面する問題は余りにも多い。

先づ第一は勞働条件切り下げとの闘いである。

最近起りつゝある例に徹しても金融難、鑛害不振を理由に賃金の二〇―三〇パーセント切り下げ、勞働時間の二―三時間延長、休日の増加等中小炭鉱は軒なみにこの様な会社の提案を受け組合もまた「首切りよりは」…とこれに同意せねばならない実情に追いこまれている。而も数ケ月の賃金遅払 映 聞の上にこの打撃が加えられていることは余りにも悲惨である。

この傾向はもはや中小だけの問題ではなく明治を皮切りに大手にも及びはじめている。三池の貯炭も既に十万トン、夏枯れを迎え、需要期に入る十月までには恐らく二十数万トンの貯炭の山を築くことが予想され、四十三億余のボ字を組んだ会社が無為無策でこれを放置する筈もなし、政府の出炭抑制策と共にその対策がわれ〳〵勞働者に向けられることは三ツ児でも考え得ることである。

適切な例ではないかも知れないが、下り坂にかゝれば車は勝りでに走り出すものだ。経済状態が下降するときはじつとしていても賃金切り下げが始まる。勞働組合の任務はたゞ此の際に下降し始める車にどれだけブレーキを掛け得るかと言うことである。これは景気の上昇期（此の時期は放っておいても賃金は上る）や横バイの時期から比べると組合無用論が飛び出る可能性の多い時である。上げる時だけの組合を考えている人々にとっては一見して組合費を納めるだけ損だと言うことにもなりかねない危険な時期である。今期はこの問題と真正面から取り組むことを迫られている。

（二）

第二は「組合づくり」への努力である。

総評、炭勞、三鉱連、西鉱連、及び三鉱勞組の本部、支部にあって吾々が対決しなければならないのは、資本家の搾取政策の外には組合分裂主義者との闘いである。

組合づくりは勞働者階級の協力、結束を如何にして強化するかが中心であることは言うだけヤボな事かも知れないが、その方法になると千差万別である。思想と言論の基本的自由を守りながら団結を守ると言うことはなみ〳〵ならぬ技術を要するであろう。

その為には吾々はフランス勞働総同盟にあって不屈の闘志と最高の指導力を高く評価されているブノア・フラションの次の言葉を参考にすべきであろう。

☆セクト主義（排他的縄張り主義）と言うやつは魔法瓶のおきまりないとは、とてもうち破ることのできない、頑強で、油断もスキもならない難病のようなものである。

☆セクト主義をなくすると言うことは説得の立場をとることであり、下手した場ばを放つことを放棄し、裏切りの個々の行為と勞働者階級におよぼすその結果を説明することである。

☆セクト主義をなくすると言うことは共産主義者も、社会民主主義者も、キリスト教信者も、回教徒も、無神論者も、すべてお互に自分達は、それぞれの主義主張を相手に押しつけない、完全に兄弟同志なのだと感じ合えるように行動することを意味する。すなはち みんなが統一を作り出すのに役立つ基盤の上にたって一緒に行動できるようにすることである。

フラションのこの様な統一への決意と各組合が単独でも闘える体勢によって始めて本格的な広汎な統一闘争が組めるのである。実際のところ幹部間の考え方の相違や幹部同士の利害関係によって組合員までも互に対立しソノ突き合せている例が非常に多いがこんな事では組合員は迷惑こそすれ一銭の得にもならないそれのみかその対立は組合分裂の最良の好餌として資本家に利用されるに止るのみである。

口に統一と団結を説き、行動で分裂を助長したのでは組合運動は浮ばれないことを指導者も、組合員も、家族も知ることが急務であろう。

これを克服する為にこそ大衆闘争が真剣に取り上げられ、現在全国の組織勞働者間に「組織づくり」が研究されている理由がある。

以上三点の努力が実を結ぶことなしに経営参加や政治的進出はあり得ないことを反省すべきである。

三役は再選される

議長は北原守人氏（三川）に

……とが諒解され北原守人氏（三川）が議長に、佐々木繁義（宮浦）、山田正雪（三作）の両氏が副議長に選出された。農条の担当部門は執行委員会で決定し 次期中央委員会で確認をうけることを決定して第二回中央委員会は終了した。

書記次長に山ド、北岡両氏

各担当部門決定のための執行委員会は中央委員会終了后引続いて本部大会議案を開催された。教宣関係担当次長が立候補者が多いため投票で決定することゝした結果、前教宣部長の北岡隆氏（三川）が就任した。

つづいて各担当部門は運動無記名投票の結果、別紙の如く各担当部を決定した。

本部

組合長　宮川　陸男（四山）
副組合長　岡川　武光（三川）
書記長　河野　昌幸（宮浦）
書記次長　山下　一二（港務）
〃　北岡　隆（三川）
総務　中川　末藏（本所）
労働　高田　正利（宮浦）
厚生　古賀　徳蔵（三川）
教宣　松尾　三喜（四山）
編集　平島　敏治（製作）
法政　花園　憲一（宮浦）
財務　藤木　勝徳（本所）
監事長　水元　盛広（港務）
監事　島田　信一（製作）

支部

支部長　三川酒井　善為
副支部長　児島　以建
〃　谷端　一信
〃　山田　一男
〃　松村　磯正
〃　広人
〃　次郎
〃　知英
〃　照夫
〃　恵藏
労働部長　四山松本　勇
〃　山崎　与一
〃　野　勇明
〃　樂章
〃　宮浦野方　嘉蔵
〃　湯村　敏男
〃　吉賀　春吉
〃　小川　芳郎
〃　江崎
〃　田島　中島
教宣部長　本所塚元　敏藏
〃　中川原　末松
〃　山下　開蔵
〃　田島　
厚生部長　港務梅崎藤之助
〃　道山　房人
〃　川畑　昭二郎
〃　渋田　紀生
〃　本原　
〃　製作竹原　鑑也
〃　白橋　
〃　岡村　時光
〃　中原　勝喜
〃　山戸　

賃金20%カットの中に立つ中小鉱

組合側、再建案を承認

岩屋

昨年水害以来復興闘争を闘い続けている高倉岩屋労組に対し会社は去る十七日賃金カット二〇%を骨子とする再建案を提示、交渉の上無記名投票を行った結果、過半数でこれを承認

①カットの期間は六―九月とし炭況好転し次第元に戻る。

②未復職者（二三〇名）の特別退職金については別途協議する。

③出炭目標九〇〇トンが達成出来なくても人員整理、賃金カットは行わない。

明鑛の企業整備

組合側押切られる

明治勞組九、北運合会に対し会社は企業不振と、それに伴う貯炭増加を理由に五月から九月までの五ケ月各四日間休業日を増加し出炭抑制を実施したい旨申入れ、若しこの提案が容られぬ場合は終手段として老朽坑の休廃山を実施すると脅かした。これに基き十以上のように会社側から押切られ六日、廿二日の二回中央勞働協議会で決定した。

飢餓迫る新日尾

賃金未払のまゝ他に貸し

日鉱新日尾は経営不振で休山を決定していたところこの程賃金も退職金も未払いのまゝ二瀬町の宝井氏に貸しするとの契約を取り交し宝井氏は勞務課員を送りこんで組合員に対し社宅の明け渡しを迫った。組合側としては賃金、退手未払額三千八百万円のうち二千万円を交払うよう要求したが、三ヘもなくはねつけられ、金も米も置草もなく組合員五四一名、家族共約千三百名は飢餓に追られている。

重傷三名を出す

三川鑛に災害相踵ぐ

三川鉱掘進工株柳茂平氏（三）は廿五日午后六時十分頃令和左十七片昇立坑で掘進作業中六尺ノミが折れて前にのめったはずみで折れ口が頸部から肩部まで突き刺さり（約七寸位）気管並に動脈を切る と云う重傷を負い、天領町本院に入院加療中だが幸い生命は取止める見込み。

△…同じく同日午后八時五分上層三一〇米坑西十五卸左二片一昇で採炭工橋本博士氏（三）が切羽ヘローダーを入れ込めようとしている時、入口角目枠脚とローダーとにはさまれ、胸部、背部に全治一ケ月の傷を負った。

△…二日働いた廿八日には機械工田上末人氏（三）が本層東左一五牛三昇二号ゲートでチェンコンベアの絡端に塊炭と松炭が渋滞したので運転を停止して取り除いたのち当該コンベアの運転方を合図したのに対し、運絡不十分で二番コンベアも運転を始めたので、その原動機のギアに両脚を噛まれ、右大たい骨折左下たい骨折及び挫創で全治三ケ月の重傷を受けた。

松岩で受傷

四山の松尾壽太郎氏

廿一日午前五時五分頃、四山鉱六百米坑運東一〇卸東三片カツペ払で検取工松尾壽太郎氏（三）が採炭作業中天井際の松岩（八寸×七寸×五寸）が落下し左足下たい部に全治四週間の重傷を負った。

以上不幸にして職務上傷き倒れた組合員に対し衷心から御見舞の言葉を贈ると共に再起の日の一日も早からん事を祈るものであります。

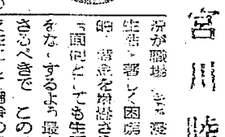
切に御鞭撻を

監事長　水元　盛廣

換気短縮や賃金の遅滞配や勞働時間の延長又は首切等の形で我々勞働者に鉄のワクをはめてそのワクを強引に打出して来た反動政策の強行を弱引に打出して来た反動政策の強行を弱引に加えて自らの主張を合法化する為の一連の悪法を羅列することに成功しました。この危機に際し我等監事団と致しては組織の運営に対する監査を更に深め一切の団結と闘争の要因ともいうべき組合財務の運営に建設的協力致したいと存じます。切に御批判を致す為の重責を痛感するものであります。

より強い團結を

組合長　宮川　陸男



闘争をより強く推し進める為の規約改正に引続き、廿一日の中央委員会で機関が構成され、三度び組合長の大任を帯びることゝなりました。

今年の闘争目標は先ず平和を守る闘いに重点が指向され、最終的には憲法改正を如何にはねのけるかの態勢整備にかゝっていると思います。次には生活を守る闘いですが これは軍事予算に伴う金融つまり締めの結果もたらされた経済不況の口実にのらず、賃上げ闘争を強く推し進める為の支柱として闘争の前進を期す為 この二つの大目標をなし、するよう最大の努力が傾注さるべきで

支柱として闘争の前進を期す為 この二つの大目標を達成